第８章　地域生活拠点・住環境保全エリア

１．エリアビジョン

地域生活拠点　（各地区総合支所周辺）

目指す姿

日用品の購入等、身近な生活を支える拠点

- ✓ 日常生活を支える商業施設、医療施設、子育て施設、福祉施設等が身近に存在している。
- ✓ 公共交通ネットワークや自動車等によりスムーズに利用でき、子どもから高齢者まで心豊かに暮らしている。

【求められる機能】

- 行政サービスを中心に、身近な生活を支える施設が揃っている地域
- 子どもから高齢者まで住み続けることができる地域

拠点が抱えるリスク

- 身の回りで必要な生活サービス施設が身近になく、長距離・長時間の移動が発生
- 生活サービス施設の不足等から住み続けることが困難な地域が発生

計画の策定で期待される効果

- 必要な生活サービス施設が身近に集積し、容易にアクセスが可能な拠点を形成
- 住み慣れた地域でこれまでどおりの暮らし方を続けられる機能を維持

行政窓口など、必要なサービスがまとまっていて利用しやすいね♪

地域の支え合いや生活サービスが近くにあって、住みやすいね♪

地域のつながりがあって、安心して子育てができるね♪

住環境保全エリア（「都市型居住促進エリア」に含まれないエリア）

目指す姿

住み慣れた地域でこれまでどおりの暮らし方を続けられるエリア

- ✓ 地域の生活や文化、コミュニティが維持され、ゆったりとした生活を求める人々が暮らしている。
- ✓ 各拠点までのアクセス性が確保されている。
- ✓ 多様な地域特有の暮らしが継承され、豊かな自然との共生や農林水産業と調和した環境が維持されている。

【求められる機能】

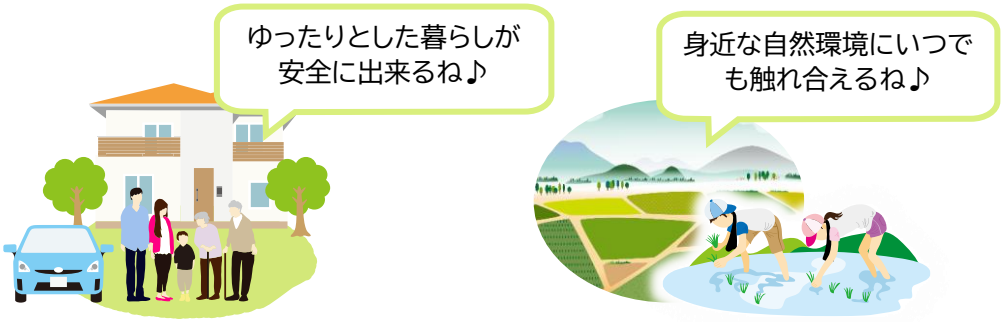
- これまでどおりの良好な住環境を維持し、住み続けることができる地域
- 豊かな環境と調和したゆったりとした住まい方を享受できる地域
- 職住が近接する住まい方を保全する地域（※例えば、農業等の従事者の農村部での居住は存続）

エリアが抱えるリスク

- 人口減少の進むエリアと宅地開発の進むエリアが無秩序に発生
- 身近な自然環境の保全や1次産業の担い手の住まい方に影響
- 必要な生活サービス機能が身近になく、長距離・長時間の移動が発生

計画の策定で期待される効果

- 各拠点の活性化に合わせたアクセス性の担保により、住み慣れた地域での居住が実現
- ライフスタイルに応じて適切に新築・住み替えが進み、ゆったりとした自然豊かな暮らしが実現
- 身近な自然景観や農林水産業が適切に維持



２．地域生活拠点・住環境保全エリアの持続的な居住形成施策

（１）持続的な居住形成施策

地域生活拠点・住環境保全エリアにおいても、持続的に暮らし続けることができるように、「石巻市都市計画マスタープラン」と連携し、既存のインフラ等を活用しながら総合支所を中心とした良好な生活環境の形成と周辺の自然環境と共生したゆったりとした居住環境の形成を図ります。

【持続可能な居住形成施策】

- ✓ 総合支所を中心とした拠点への生活サービス施設の維持・誘導
- ✓ 既存のコミュニティ施設の計画的な維持・保全
- ✓ 地域連携軸を中心としたインフラの維持向上
- ✓ 地域包括支援との連携による住み慣れた地域での生活の継続
- ✓ 跡地等管理等区域、同指針の適切な設定（都市再生特別措置法第 81 条第 16 項）
- ✓ 暮らしの質を高める住民主体のまちづくりの推進

（２）ネットワークの施策

地域で不足する生活サービス施設については、サービス拠点形成エリアとの連携の深化による充足を図るため、「石巻市総合交通計画」や「石巻市都市計画マスタープラン」と連携し、交通弱者に配慮した交通体系の確立や交通ネットワークの持続可能な維持に向けた新たな移動手段の検討を行います。

【ネットワークの施策】

- ✓ 総合交通計画と連動した交通ネットワーク施策の推進
- ✓ 地域生活拠点と都市核拠点・新都市拠点・準都市拠点へのアクセス性の維持向上
- ✓ 各地域内での移動手段の確保による各地域における生活利便性の維持
- ✓ 交通弱者に配慮した交通体系の確立（住民バスや乗合タクシー等）
- ✓ グリーンスローモビリティ等新たな移動手段の検討